



活発な質疑応答が行われた

医科研究会

# がんゲノム医療ってどんなもの

～患者さんに最適な医療を提供するために～



末岡 榮三朗 先生

4月16日(火)佐賀市アバンセにて、末岡榮三朗先生(佐賀大学医学部臨床検査医学講座教授、検査部長、輸血部長、がんゲノム外来担当)を講師に、医科研究会「がんゲノム医療ってどんなもの」患者さんに最適な医療を提供するために」を開催し、28医療機関から34人の参加がありました。以下、参加者からの報告です。

末岡榮三朗先生のご講演内容を私なりにまとめて報告させていただきます。

人の体では10代後半からすでに遺伝子に傷がつき始め、がん細胞になっていきます。白血病を含めがんの遺伝は少なく、食事、ストレス、喫煙、飲酒、疲労や睡眠不足などの生活習慣や環境が大

きく影響しています。今やがん罹患率は2人に1人ですが、医学の進歩に伴い死亡率は低下し、がんは治る時代になってきました。特に腹(胸)腔鏡などによるロボット手術(ダヴィンチ)や重粒子線を含む放射線治療、抗がん剤治療、分子標的治療などに著しい進歩がみられます。

分子標的治療は正常の細胞は傷つけないこと、がん遺伝子の変異を伴った細胞だけに治療薬を効かせるため副作用も軽減されます。現在、乳がん、胃がんでHER2、肺がんでALK、EGFR、PDL1、大腸がんではRASなどがあり、それぞれ個別化治療が進んでおり、データが集積された有効な治療は標準治療となり保険適応にもなっています。

ゲノム医療は、今のところ標準治療がないがんや標準治療が終了した場面に限られてはいますが、がん組織を次世代シークエンサー(スパコン)を用いて多数の遺伝子(200〜300)を同時に解析し(遺伝子パネル検査)、それぞれの遺伝子変異や病状に合わせて治療を行います。これまでになく治療を選択するもので、将来はがんの標準治療になってくると思われます。現在その体制作りが進められており、患者説明↓IC取得↓検体遺伝子解析(実績のあるアメリカの会社に依頼)↓カンファレンス↓患者説明までの流れをクリニカルシークエンスといい、国内完結型にすべく佐賀大学も参加し実用化を目指しています。

また検体も非侵襲的なものとして、主に少量の血液などを用いたキッドバイオプシーができたようになってきました。血液中にはさまざまな主要由来分子が流れており、がん細胞(circulating tumor cells: CTC)、細胞外小構造体(エクソソーム)やオンコソーム、末梢血遊離核酸(DNAやRNA)などのバイオマーカーが含まれており、これを解析することにより診断から治療までが可能となりつつあります。

以上のような内容で、コスト軽減や時間の短縮などが今後の課題のこととして、患者さんに優しい無駄のない効率的な治療を目指して最先端医療は日進月歩しております。

(白石町 森 倫人)

# 佐賀県保険医新聞

発行所

佐賀県保険医協会

佐賀市駅前中央1-9-45

(大樹生命佐賀駅前ビル4F)

電話 0952(29)1933

FAX 0952(23)5218

HP <http://saga-doc.jp>

[hoken-i@star.saganet.ne.jp](mailto:hoken-i@star.saganet.ne.jp)

購読料 1部 200円

送料込 年間2,400円

(会員の購読料は会費に含まれています)

## 協会会員数

内科 655人

歯科 333人

合計 988人

(4月30日現在)

## 主な記事

- ・ 歯科研究会「成功率95%リンゴ丸がじり全部床義歯最前線」 2面
- ・ 歯科スタッフ向け学習会(2回目) 2面
- ・ 2019年度の指導等に関する資料が開示されました 3面
- ・ 共済部だより「保険医年金申込締切迫る！」 7面
- ・ 法律相談「相続に関するルールが変わります」 7面

# 第38回 定期総会のご案内

市民公開講演会 **入場無料**

会場 **ホテルマリターレ創世**

佐賀市神野東2-5-15

☎0952-33-5511

演題 **「憲法の未来」**

講師 **木村 草太氏**

[首都大学東京教授]

日時 **8月31日(土)**

\*総会 14:00~14:50

・ 2018年度活動報告と2019年度活動方針  
・ 2018年度決算と2019年度予算 他

\*市民公開講演会 15:00~16:30

\*懇親会 16:40~18:10

参加費…無料(配偶者の方も一緒にご参加いただけます)

◇お問い合わせ・お申し込み先

佐賀県保険医協会事務局まで

TEL 0952-29-1933

FAX 0952-23-5218



■講師より一言

憲法問題に注目が集まっています。この講演では、憲法の概念や立憲主義の基本をおさえた上で、日本国憲法の内容を分析してみます。それと関連し、現在議論されている憲法改正問題について、どのようにアプローチすればよいか、考えてみましょう。

\*講演会はどなたでもご参加いただけます。

\*駐車場は数に限りがあるため、できる限り公共交通機関にてご来場ください(JR佐賀駅より徒歩5分程度)。

\*詳細は同封のチラシをご確認ください。

## 曙

「そんなつもりはなかった」と自身が「行動した後悔した経験は誰しもがあるだろう」▼あの方も、もう何度目かで「そんなつもりはなかった」と後悔したのではないだろうか。「子供を3人くらい産むようにお願いしてもらいたい」という発言の意図は、「少子化対策の一環としての発言。子供を持つ幸せを享受してもらいたい」と心から思った。子育てしやすい環境を作ることが大事だと言いたかった。それ「子供を産むこと」を押し付けるつもりも、誰かを傷つけるつもりもなかった」というものらしい。まあ本当にそう思っている発言だったのだろう▼一方で、発言等の一部だけを切り取って誤解を与えるよう報道する「切り取り報道」が最近話題となっている。視聴者としては、新聞、週刊誌、テレビ・ネットニュースなどメディアの報道をそのままのみにもできない▼少子高齢化問題は先進諸国共通の現象であり、日本では人口全体に占める70歳以上の割合が2割を超えている。少子高齢化が及ぼす影響は、労働年齢人口減少による労働力の減少、経済成長の低下、少子高齢化度維持のための現役世代負担増による消費力減少等々が挙げられ、現状を考慮した解決策が必要であることは間違いない▼とはいえ、何か発言するときは相手や周囲に及ぼす影響を考えてからにする。越したことはない。

(ふうけんぼす)